

生誕一〇〇年記念

高木聖鶴展



2022年

6月3日(金)～7月3日(日)

私たちは「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

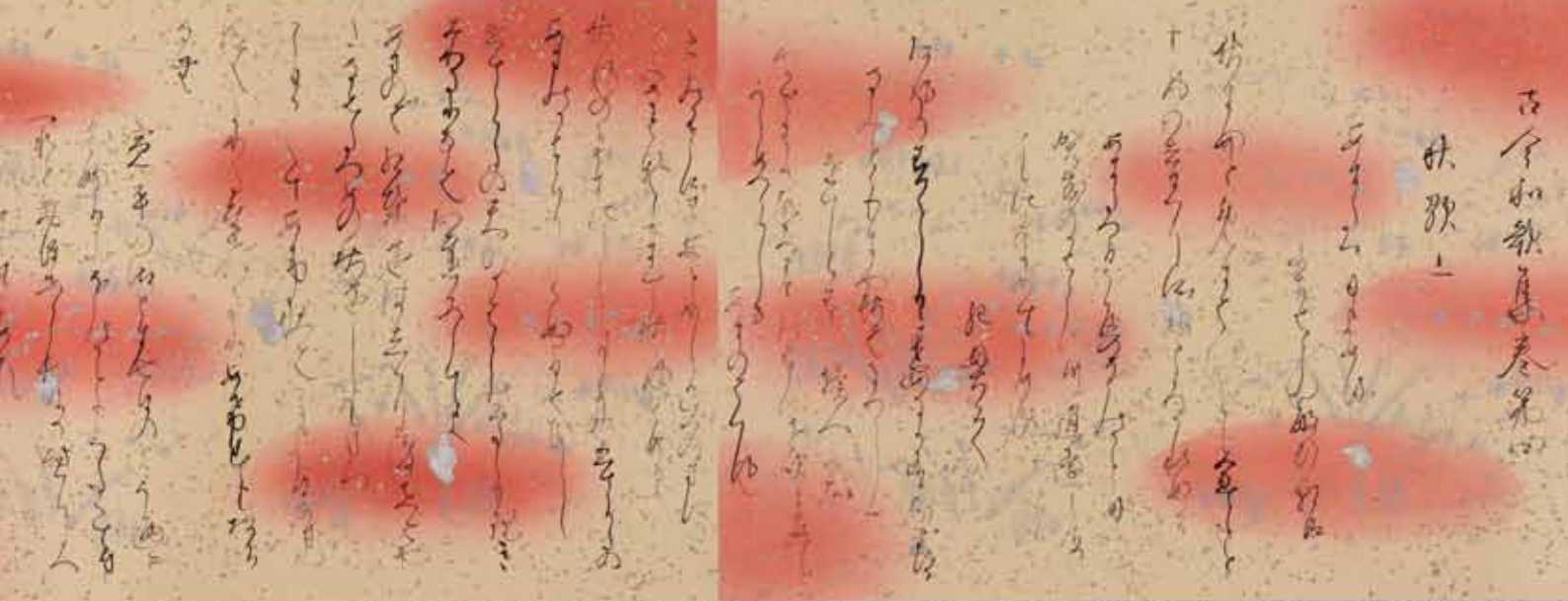


岡山県立美術館
OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

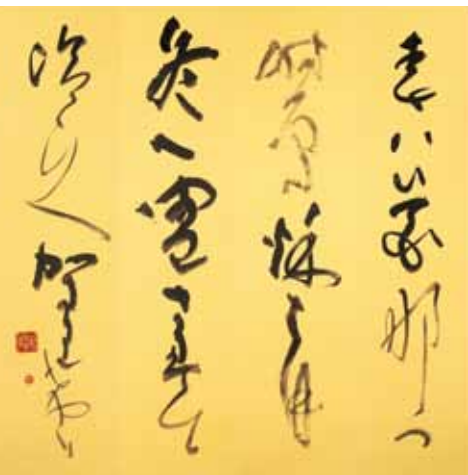
◎会場／岡山県立美術館2階展示室 ◎開館時間／9:00～17:00(入館は閉館30分前まで) ※但し6月3日(金)は10:00開館、6月25日(土)は19:00まで開館 ◎休館日／月曜日 ◎観覧料／前売800円(一般のみ)、当日一般1100円、65歳以上900円、大学生500円^{*}、高校生以下無料^{*} ※年齢の証明できるものをご持参ください

主催：岡山県立美術館 山陽新聞社

後援：岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、総社市、総社市教育委員会、(公財)岡山県郷土文化財団、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、エフエム岡山、レディオオモモ、oniビジョン、(公社)岡山県文化連盟、(一財)岡山県国際交流協会、岡山日展会、岡山県書道連盟、朝陽書道会



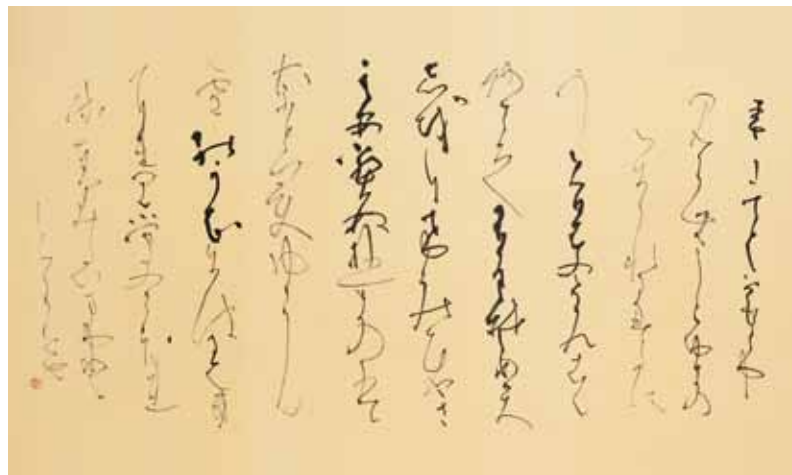
《古今和歌集卷第四》(部分)



《春は花夏ほととぎす》(部分)



《大愚帖》(部分)



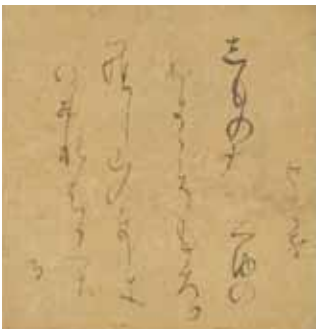
《春》(部分)

高木聖鶴(たかぎ せいかく)は大正12(1923)年総社市に生まれ、終戦後、「仕事以外に生涯を通じて学べるものを」と書を選び、書家の内田鶴雲に師事。日本や中国の古筆(こひつ)を研究し、特に仮名書の頂点といえる平安期の古筆を徹底的に臨書研鑽し、優美さと鋭さを兼ね備えた独自の書風を打ち立てました。昭和25(1950)年日展に初入選して以後、同展や朝陽書道会展等に作品を発表。平成29(2017)年93歳で没するまで70年以上の長きにわたり、自身の書作に励むとともに朝陽書道会会長、日展顧問、日本書芸院最高顧問等の要職を歴任。平成18(2006)年に文化功労者に選出、平成25(2013)年には岡山県内在住者として初の文化勲章を受章するなど、日本の書壇の発展に多大な功績を残しました。

本展は、高木の生誕100年を記念し開催するもので、各地の博物館施設や個人に収蔵される代表作、初期から最晩年まで100点の書作を一望するとともに、書家・高木聖鶴の心技を育んだ愛蔵の古筆や文房四宝を展覧します。

古筆

寸松庵色紙(扇面合装)部分(重文)



硯

蓬萊硯(伝・洮河緑石)表側
翁方綱・阮元銘



墨

明墨 奇玩 表側
羅小華製



■関連事業

- 記念講演会「父・高木聖鶴」 日時/6月5日(日)14:00～
講師/高木聖雨氏(高木聖鶴氏長男・謙慎書道会理事長・日本芸術院会員)
会場/美術館2階ホール
- 記念対談「高木聖鶴の書とコレクション」 日時/6月25日(土)15:00～
講師/島谷弘幸氏(九州国立博物館) 恵美千鶴子氏(東京国立博物館)
会場/美術館2階ホール
- 公開揮毫
講師/高木聖雨氏(漢字) 日時/6月4日(土)14:00～
森上光月氏(かな・朝陽会理事長) 日時/6月12日(日)14:00～
藤川翠香氏(かな・朝陽会理事長代行) 日時/6月22日(水)14:00～
会場/美術館地下1階屋内広場

■交通のご案内

JR岡山駅後楽園口(東口)から徒歩15分
路面電車:東山行「城下」下車 徒歩3分
宇野バス:四御神/瀬戸駅/片上方面行
「表町入口」下車 徒歩3分
岡電バス:藤原団地行「天神町」下車すぐ

■岡山県立美術館
〒700-0814 岡山市北区天神町8-48
Tel 086-225-4800・Fax 086-224-0648
web <https://www.okayama-kenbi.info/>

※関連事業の詳細や申し込み方法はwebでご確認ください。